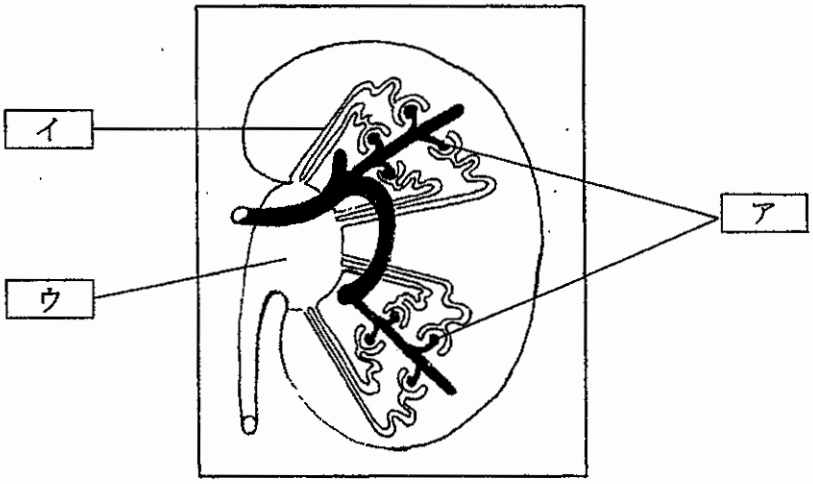
令和７年度福島県公立学校教員採用候補者選考試験問題
養護教諭　【　専　門　】

1　問題用紙は４枚あります。①から⑦まであります。
2　解答はすべて解答用紙に書きなさい。解答用紙は３枚あります。
3　解答用紙のみ提出しなさい。

1　次の（1）～（4）の問いに答えなさい。

（1）下の図は、「学校検尿のすべて」（令和２年度改訂）（公益財団法人日本学校保健会）に示されている腎臓の構造を表した図である。腎臓の働きについて述べた①～③の文を読み、［ア］～［ウ］に当てはまることばを書きなさい。

① 血液は、［ア］でろ過されて、原尿となる。
② 原尿が［イ］を流れる際に、グルコースや無機塩類、水などが毛細血管に再吸収される。
③ 再吸収されなかったものが尿となり、［ウ］を経て輸尿管を通り、膀胱に送られ排出される。



（2）次の文は、「学校検尿のすべて」（令和２年度改訂）（公益財団法人日本学校保健会）に示されている肉眼的血尿と小児の尿量について述べたものである。［ア］、［イ］に当てはまる数字の組み合わせが正しいものを a ～ d の中から１つ選び、その記号を書きなさい。

① 概ね１Ｌの尿に血液が［ア］mL混ざると肉眼的血尿になるといわれている。
② 排尿の自立が済んだ小児で１日に［イ］回以上排尿する場合を頻尿という。

記号	ア	イ
a	1	7
b	1	8
c	2	7
d	2	8

（3）次の文は、「児童生徒等の健康診断マニュアル」（平成２７年度改訂）（公益財団法人日本学校保健会）に示されている検尿の方法について述べたものである。a ～ d の中から正しいものをすべて選び、その記号を書きなさい。

a　正しい採尿は、就寝前の排尿をしないよう指導し、翌朝一番尿を少し排尿してから中間尿を１０mL程度採尿する。

b　学校では、直射日光を避け、風通しの良い場所に検体を集める。

c　蛋白尿は６～１２時間後に陰転することがあるので、検査は採尿した当日（採尿後５時間以内）に完了することが望ましい。

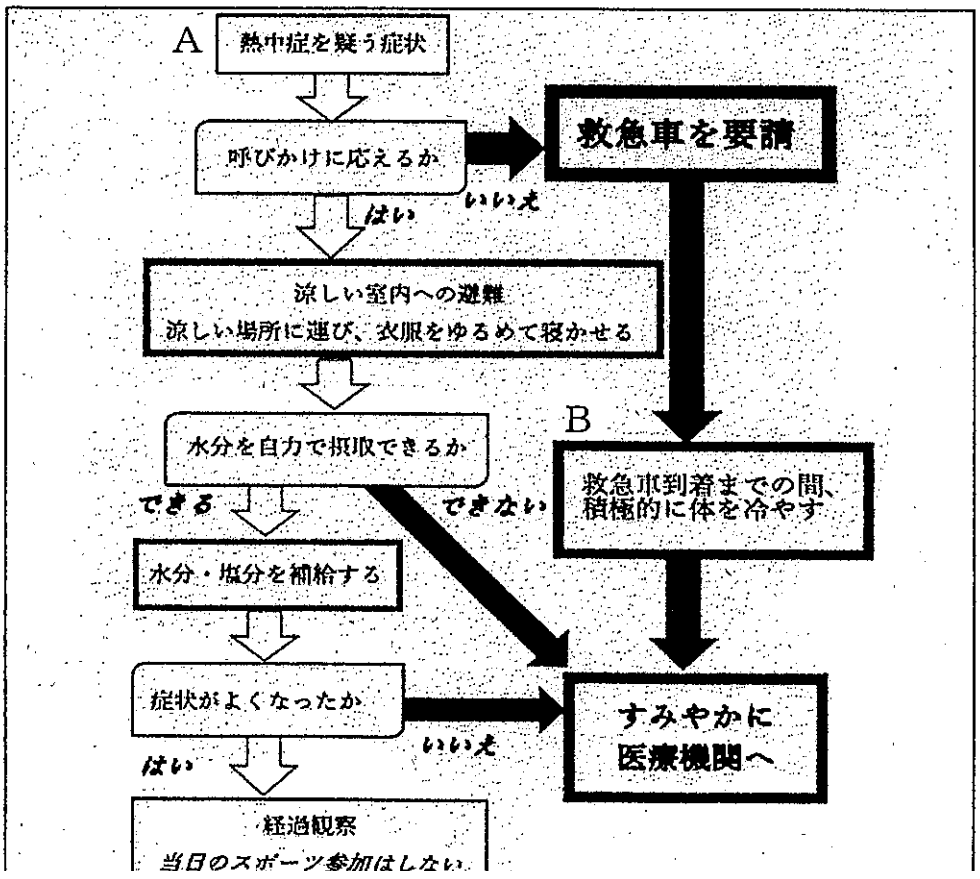
d　尿の潜血反応を陽性化するおそれのあるビタミンCを添加したお茶やウーロン茶、ビタミンCの含有量の多いジュースや薬剤は飲まないように指導する。

（4）次の表は、「腎臓手帳　児童・生徒用」（令和２年度改訂）（公益財団法人日本学校保健会）で小・中学生の時期の代表的な腎臓病としてあげられている疾患について説明したものである。［ア］～［エ］に当てはまることばを書きなさい。

疾患名	主な症状等
［ア］症候群	強いむくみでみつかることが多い病気で、大量の蛋白尿が特徴的である。
尿路感染症	細菌などの病原体が膀胱や腎臓に侵入して炎症を起こす病気で、多くの場合、尿中に［イ］が増えてくる。膀胱炎では排尿痛、頻尿、［ウ］といった症状を示す。
［エ］血尿・［エ］蛋白尿	尿にだけ異常（血尿のみ、あるいは、蛋白尿のみ）が見られる状態で、多くの場合、薬物治療や食事・運動の制限は必要ない。

［2］熱中症について、次の（1）～（3）の問いに答えなさい。

（1）下の図は、「スポーツ事故防止ハンドブック（解説編）」（独立行政法人日本スポーツ振興センター）に示されている「熱中症への対応」をもとに作成した、校内掲示用の熱中症対応フローチャートである。①、②の問いに答えなさい。



① 図中Aについて、教職員や児童生徒に対してより分かりやすい表現にするため、熱中症を疑う症状を具体的に記載することにした。熱中症を疑う症状を５つ書きなさい。

② 図中Bについて、救急車が到着するまでの間、積極的に体を冷やすための効果的な冷却方法を１つ書きなさい。

（2）熱中症が疑われる症状で救急車を要請した際に、救急搬送先の医療機関に提供する内容として考えられる事項を３つ書きなさい。ただし、救急車要請時に伝えた下記の情報は除く。

熱中症を疑う症状、体温、脈拍数、呼吸数、意識の状態、発汗の程度、水分の摂取状況

（3）児童生徒の主体的な啓発活動に繋げるために、児童生徒の委員会活動として考えられる熱中症対策の活動例を２つ書きなさい。

3 次の（1）～（4）の問いに答えなさい。

（1）次の条文は、学校保健安全法施行規則の一部である。文中の［ア］～［エ］に当てはまることばを書きなさい。

> 第二十四条　学校薬剤師の職務執行の準則は、次の各号に掲げるとおりとする。
> （略）
> 五　法第九条の［ア］に従事すること。
> 六　学校において使用する医薬品、［イ］、劇物並びに［ウ］に必要な用具及び材料の管理に関し必要な指導及び助言を行い、及びこれらのものについて必要に応じ試験、［エ］又は鑑定を行うこと。

（2）次の文は、「第六次薬物乱用防止五か年戦略」（令和５年８月　薬物乱用対策推進会議）「目標１　青少年を中心とした広報・啓発を通じた国民全体の規範意識の向上による薬物乱用未然防止」の一部である。文中の［ア］～［ウ］に当てはまることばの組み合わせが正しいものをａ～ｄの中から１つ選び、その記号を書きなさい。

> （薬物乱用防止教室の充実強化）
> 薬物乱用防止教室は、［ア］に位置付け、すべての中学校及び高等学校において［イ］は開催するとともに、［ウ］の実情に応じて小学校においても開催に努める。（文部科学省、警察庁）

記号	ア	イ	ウ
a	教育課程	年１回	学校
b	学校保健計画	学期１回	学校
c	学校保健計画	年１回	地域
d	教育課程	学期１回	地域

（3）次の文は、「高等学校学習指導要領解説　保健体育編　体育編（平成３０年７月）」「第２章　保健体育科の目標及び内容」「第２節　各科目の目標及び内容」「保健」の一部である。文中の［ア］～［オ］に当てはまることばを下の a ～ n の中から選び、その記号を書きなさい。

> (ｳ) 保健・医療制度及び地域の保健・医療機関
> （略）
> ㋐　医薬品の制度とその活用
> 医薬品は，［ア］，要指導医薬品，一般用医薬品の三つに大別され，承認制度によってその有効性や［イ］が審査されており，販売に規制が設けられていることについて理解できるようにする。また，疾病からの回復や悪化の防止には，個々の医薬品の［ウ］を理解した上で，［エ］に関する注意を守り，正しく使うことが必要であることについて理解できるようにする。その際，［オ］については，予期できるものと，予期することが困難なものとがあることにも触れるようにする。

a 効能	b 品質	c 特性	d 使用上	e 化粧品
f 使用法	g 効果	h 服用	i 副作用	j 医療用医薬品
k 安全性	l 性質	m 医薬部外品	n ジェネリック	

（4）近年、若年層を中心に一般用医薬品（市販薬）の乱用・依存が問題となっています。医薬品を用法・用量を守らずに過量に摂取することを何というか。片仮名７字で書きなさい。

4　次の（1）～（3）の問いに答えなさい。

（1）次の条文は、学校保健安全法施行規則の一部である。文中の［ア］～［ウ］に当てはまることばを書きなさい。

> 第十九条　令第六条第二項の出席停止の期間の基準は、前条の感染症の種類に従い、次のとおりとする。
> （略）
> 二　［ア］の感染症（結核及び髄膜炎菌性髄膜炎を除く。）にかかつた者については、次の期間。ただし、病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めたときは、この限りでない。
> （略）
> ハ　麻しんにあつては、［イ］を経過するまで。
> （略）
> 三　結核、髄膜炎菌性髄膜炎及び［ウ］の感染症にかかつた者については、病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めるまで。

（2）次の文は、「学校における麻しん対策ガイドライン 第二版」（平成３０年２月　国立感染症研究所感染症疫学センター）「１．麻しん発生の予防」の一部である。①～③の問いに答えなさい。

> 学校に在籍する児童生徒等が麻しんを発症した場合にどのような措置をとるかを判断するための材料として、児童生徒等の麻しんの免疫状態（［ア］歴・［イ］歴）を把握しておくことが重要である。

① 文中の［ア］、［イ］に当てはまることばを書きなさい。
② 麻しんについて、眼が充血し、涙や眼脂（目やに）が多くなる、咳、鼻水等の症状と発熱がみられる、感染力が最も強いこの時期を何というか書きなさい。
③ 麻しんに感染した際に、口内の頬粘膜にできる特徴的な白い斑点を何というか書きなさい。

（3）学校における結核対策について、次の①、②の問いに答えなさい。
① 次の文は、「学校における結核対策マニュアル」（文部科学省）「学校における結核検診についての検討委員会報告書」（平成２３年８月１２日）の一部である。文中の［ア］、［イ］に当てはまることばを書きなさい。

> 定期の健康診断の時期を過ぎて転入してきた児童生徒については、転入前の学校での健康診断や［ア］等の結果を必ず確認し、必要のある場合には学校医の診察を受けさせるといった対応を取ることが重要である。特に学校保健制度が異なる外国からの転入生で、それまでの［イ］がない等の場合は重点的に対応するべきである。

② 下の問診票は、児童Ａの結核の問診票である。この問診票の内容から、本人及び保護者に対し、追加で質問すべき項目を１つ書きなさい。

問 診 票

調査内容			どちらかに○をつけて下さい	
質問1	このお子様が、いままでに結核性の病気（例．肺浸潤、胸膜炎またはろくまく炎、頸部リンパ腺結核）にかかったことがありますか？		はい　年　月　頃	（いいえ）
質問2	このお子様が、いままでに結核に感染を受けたとして予防のお薬を飲んだことがありますか？		はい　年　月　頃	（いいえ）
質問3	このお子様が、生まれてから家族や同居人で結核にかかった人がいますか？		はい　年　月　頃	（いいえ）
質問4	このお子様が、過去３年以内に通算して半年以上、外国に住んでいたことがありますか？		（はい）	いいえ
	補問	※　質問４で「はい」と答えた方へ		
	4－1	それはどこの国ですか？	インド	
質問5	このお子さまは、この２週間以上「せき」や「たん」が続いていますか？		はい	（いいえ）
	補問	※　質問５で「はい」と答えた方へ		
	5－1	このお子さまは、その「せき」や「たん」で医療機関において、治療や検査を受けていますか？	はい	いいえ
	5－2	このお子さまは、ぜんそく、ぜんそく性気管支炎などといわれていますか？	はい	いいえ
質問6	このお子さまは、いままでBCGの接種（スタンプ式の予防接種）をうけたことがありますか？		（はい）	いいえ

〈参考〉
ＷＨＯが２０２１年から２０２５年までの間に、高負荷国として取り扱うとされている国及び地域（「学校での結核検診における結核高まん延国の変更について」令和４年１２月２３日　文部科学省初等中等教育局健康教育・食育課）
（一部抜粋）　アゼルバイジャン共和国、アンゴラ共和国、インド、インドネシア共和国

5 次の（1）～（3）の問いに答えなさい。

（1）次の文は、「生徒指導提要」（令和４年１２月　文部科学省）「第８章　自殺」の留意点で示されている文の一部である。文中の［ア］～［オ］に当てはまることばを、下のａ～ｊから選び、その記号を書きなさい。

> 学校には、生涯にわたる精神保健の観点から全ての児童生徒を対象とする「自殺予防教育」と、自殺の危険の高い児童生徒への直接的支援としての「［ア］」を並行して進めることが求められています。
>
> 自殺予防を生徒指導の観点から捉えると、安全・安心な学校環境を整え、全ての児童生徒を対象に「未来を生きぬく力」を身に付けるように働きかける「命の教育」などは、［イ］的生徒指導と言えます。「ＳＯＳの出し方に関する教育を含む自殺予防教育」は［ウ］教育として位置付けることができます。自殺予防教育の目標は、児童生徒が、自他の「［エ］に気付く力」と「［オ］する力」を身に付けることの二点です。

a 困難課題対応	b 危機介入	c 心の危機	d 適応	e 課題未然防止
f 個別対応	g 発達支持	h 多様性	i 相談	j カウンセリング

（2）次の文は、「自殺総合対策大綱」（令和４年１０月閣議決定）「第４　自殺総合対策における当面の重点施策」「２．国民一人ひとりの気付きと見守りを促す」「（２）児童生徒の自殺対策に資する教育の実施」で述べられている内容である。ａ～ｄの中から誤っているものを１つ選び、その記号を書きなさい。

ａ　精神疾患への正しい理解や適切な対応を含めた心の健康の保持に係る教育の推進
ｂ　自尊感情や自己有用感が得られ、児童生徒の生きることの阻害要因を減らすことを通じて自殺対策に資する教育の実施に向けた環境づくり
ｃ　メディアリテラシー教育とともに、情報モラル教育の推進
ｄ　関係団体との連携などを通した児童生徒が命の大切さ・尊さを実感できる教育の推進

（3）児童生徒の自殺の危険に気付いたときの対応において求められる「ＴＡＬＫの原則」について、［ア］～［ウ］に簡潔に書きなさい。

T	心配していることを言葉に出して伝える。
A	［ア］
L	［イ］
K	［ウ］

6 「児童生徒等の健康診断マニュアル」（平成２７年度改訂）（公益財団法人日本学校保健会）に示されている事項について、次の（1）～（3）の問いに答えなさい。

（1）次の文は、体重、栄養状態に関する事項について述べたものである。ａ～ｄの下線部について正しければ○を、誤っていれば正しいことばを書きなさい。

a　栄養状態は皮膚の色や光沢、貧血の有無、手の爪の状態、筋肉や骨格の発達の程度等について、視診あるいは触診により検査する。

b　思春期にみられる体重の急激な増加は思春期成長促進現象であって、身長と同じく女子の方が男子よりも２年ほど早く始まり、早く終わる。

c　病気が原因ではない肥満ややせに対して事後措置が必要と判断される児童生徒等については、更に個別に食生活、運動量、生活時間等について調査し、学級担任、養護教諭、栄養教諭等が連携して、具体的指導を展開することが望ましい。

d　体脂肪重量は貯蔵エネルギーの量を意味しているが、これが異常に増加すると肥満といわれる状態になり、成人と同様にフレイルに代表される健康障害につながることになる。

（２）次の①、②の問いに答えなさい。

① 児童Ｂについて、身長と体重の測定値に基づき肥満度を計算し、肥満とやせを判定することとした。下の数値を踏まえて肥満度を求めなさい。

肥満度は、小数第一位まで求めるものとする。

児童Ｂ　小学校４年生（１０歳）男
- 身長　１３８．０cm
- 体重　４４．３kg
- 身長別標準体重　３３．３kg

② 下の表は、肥満度に基づく判定を表したものである。ａ ～ ｃ の中から正しいものを１つ選び、その記号を書きなさい。

a

判定	やせ傾向		普通	肥満傾向		
	高度やせ	やせ		軽度肥満	中等度肥満	高度肥満
肥満度	-30%以下	-30%超 -15%以下	-15%超～ +20%未満	20%以上 30%未満	30%以上 60%未満	60%以上

b

判定	やせ傾向		普通	肥満傾向		
	高度やせ	やせ		軽度肥満	中等度肥満	高度肥満
肥満度	-20%以下	-20%超 -10%以下	-10%超～ +10%未満	10%以上 20%未満	20%以上 30%未満	30%以上

c

判定	やせ傾向		普通	肥満傾向		
	高度やせ	やせ		軽度肥満	中等度肥満	高度肥満
肥満度	-30%以下	-30%超 -20%以下	-20%超～ +20%未満	20%以上 30%未満	30%以上 50%未満	50%以上

（３）児童生徒等の発育を評価する上で、成長曲線並びに肥満度曲線を積極的に活用することが重要である。成長曲線等を描くことの意義を１つ書きなさい。

令和７年度福島県公立学校教員採用候補者選考試験
養護教諭 【専　門】　解答例・配点

120点満点

問題番号			正　答	配点	
1	(1)	ア	糸球体	2	19
		イ	尿細管（腎細管、細尿管）	2	
		ウ	腎盂（腎う、腎盤）	2	
	(2)		b	2	
	(3)		b c（２つ記載で正）	3	
	(4)	ア	ネフローゼ	2	
		イ	白血球	2	
		ウ	残尿感	2	
		エ	無症候性	2	

問題番号			正　答	配点	
2	(1)	①	・めまい・失神・四肢の筋や腹筋のけいれん（つる） ・筋肉痛・全身倦怠感　・脱力感 ・吐き気　・嘔吐　・頭痛 ・足がもつれる・ふらつく・転倒する ・突然座り込む・立ち上がれない 等から５つ	1 1 1 1 1	22
		②	・氷水・冷水に全身（首から下も可）をつける。 ・ホースで水をかけ（続け）る。 ・ぬれタオルを体にあて扇風機で冷やす。 から１つ ・首、腋下、鼠径部等の太い血管のある部分に氷やアイスパックを当てる。のみの場合は１点	2	
	(2)		・様子がおかしくなるまでの状況（食事の摂取、活動場所、何時間その環境にいたか、活動内容、服装、帽子はかぶっていたか） ・体調不良になった時の状況（現場での緊急措置の有無と方法） ・最近の状況（コンディションや疲労の状況などの体調、睡眠は足りていたか、風邪をひいていたか） ・その他（身長・体重、熱中症の既往歴、糖尿病・高血圧・心臓疾患などの既往歴、服用中の薬の有無、服用中の薬の種類） 等から３つ	3 3 3	
	(3)		・測定した暑さ指数に応じた危険度予想を表示する。 ・校内放送で暑さ指数を用いた注意喚起を行う。 ・熱中症対策に関するポスター等を作成して掲示する。 ・校内放送や全校集会で呼びかけを行う。 等から２つ	3 3	

令和７年度福島県公立学校教員採用候補者選考試験
養護教諭 【専　門】　解答例・配点

問題番号			正　答	配点	
3	(1)	ア	保健指導	2	22
		イ	毒物	2	
		ウ	保健管理	2	
		エ	検査	2	
	(2)		c	2	
	(3)	ア	j	2	
		イ	k	2	
		ウ	c	2	
		エ	f	2	
		オ	i	2	
	(4)		オーバードーズ	2	

問題番号				正　答	配点	
4	(1)	ア		第二種	2	21
		イ		解熱した後三日	2	
		ウ		第三種	2	
	(2)	①	ア	予防接種	2	
			イ	罹患	2	
		②		カタル期（前駆期）	2	
		③		コプリック斑	2	
	(3)	①	ア	保健調査	2	
			イ	健康診断票	2	
		②		来日（または帰国）後、検診（精密検査）を受けたか	3	

順不同

令和７年度福島県公立学校教員採用候補者選考試験
養護教諭 【専　門】　解答例・配点

問題番号			正　答	配点	
5	(1)	ア	b	2	18
		イ	g	2	
		ウ	e	2	
		エ	c	2	
		オ	i	2	
	(2)		b	2	
	(3)	ア	「死にたい」と思うほどつらい気持ちの背景にあるものについて尋ねる。	2	
		イ	絶望的な気持ちを傾聴する。	2	
		ウ	安全を確保する。	2	

問題番号			正　答	配点	
6	(1)	a	皮下脂肪	3	18
		b	○	2	
		c	○	2	
		d	メタボリック・シンドローム	3	
	(2)	①	33.0 %	3	
		②	c	2	
	(3)	・一人一人の児童生徒等特有の成長特性を評価できる。 ・栄養状態（肥満ややせ）の変化を早期に見つけることができる。 ・病気等（低身長、性早熟症等）を早期に見つけることができる。 ・児童生徒等及び保護者が成長曲線パターンの変化の様子を容易に理解できる。 ・肥満ややせの状態を分かりやすく評価できる。 等から1つ	3	